

医学科長からの声明

熊本大学医学部生のみなさん、日々何とかお過ごしでしょうか。教員一同、みなさんのことを心から心配しております。四月十四日からの二度にわたる震災以来、程度の差こそあれ、さぞ不自由な日々を送っておられるものと心からお察し申し上げます。地震後すぐ行った安否の確認で、全員生存ということが確認され胸をなでおろしております。多くの方々が今現在、大きな喪失感と言いやうのない不条理、疲労を感じながら、今日に至っているものと推察されます。もし体調に不具合がある方で対処できない方はご連絡ください。

医学部医学科では、震災以来、教育教務委員会、学生委員会が中心となり、学生会と連絡を取り合いながら、学生の皆さんに少しでもよい状況を切り開くよう、議論を重ねながら一つ一つ実行に移そうとしているところです。困っていることがおありでしたら、一人で悩まないで何でも是非ご相談ください。授業のこと、私生活のこと、将来のこと・・・不安で、自分で解決できないことはご相談ください。

阪神淡路大震災後、幾多の困難を乗り越え、神戸が鮮やかに復興したように、そして東北大震災後、東北の多くの方々が今力強く生きているように、我々も、学生、教員が一体となり、“One for all, all for one”の精神のもと、皆で助け合いながら復旧・復興に向けてともに歩んで参りましょう。みんなで知恵を絞りながら、あれだけの震災を経験したにもかかわらず、熊本大学医学部生は震災にへこたれることなく、立派に成長し医師となり、社会に貢献しているといわれるよう頑張ってください。

朝のこない夜は決してなく、いつか今の努力が報われる朝が必ず来ることを僕は信じております。僕らは多くの人が決して体験したことのない未曾有ともいふべき経験したことになりますが、この難局をみんなで力を合わせて何とか乗り切り、医師としても人間としても何倍も大きくスケールアップしたいものです。近い将来、皆で肩をたたき合いながら、あの日々は皆でよく頑張ったと笑顔で語る日が必ず来ることを確信しております。

平成 28 年 4 月吉日 医学科長 安東 由喜雄